参考資料5

マンガでわかる！国土管理

～カンタとリコの訪問記（案）

兵庫県丹波市編

2014.8.17
これは2014年の集中豪雨の時の写真だよ。土砂崩れが発生した大きな被害が生じたんだ。
大変、土砂崩れが。家が飲み込まれちゃいそう。
災害は今後も起こるかもしれないし、住んでいる人は不安ね…。
そう、丹波市にはこういう集落が多く、以前から山が崩れて大きな被害が生じる可能性などが指摘されていたんだ。
多くの家が山沿いに建っているね。
1
そこで丹波市は災害に強い土地利用のルールを集落ごとに作ることを目指したんだ。
土地利用のルール
特に被害の大きかった2つの集落をモデル地区として、集落の検討会を設置したんだよ。
でも、私だったら、何を検討したらいいか、知識がなくて全然分からないわ。
実際に被災したからこそ、災害に強い土地利用の必要性を実感したのね。
おや、私のことを呼びましたか？
ちらっ
知識がないのは丹波市の人も同じだよ。だからNPO法人地域再生研究センターの井原さんという専門家をお招きして、アドバイスをもらいながら、検討を進めたんだ。
井原さん…？
2

井原さん、お久しぶりです。
全然気づきませんでした。

おどろいてしまって
ごめんなさい。
リコと言います。

うわぁ!

また、お会いできて
嬉しいです。

カンタ君、この間は応援に
来てくれて、ありがとう。
リコちゃんは、
はじめましてですね。

おやおや　褒めても
何も出てこないですよ。

井原さんって防災の知識もすごいんですけど、
みんなをやる気にするというか、
みんなの方向性を1つにするというか、
そういうコーディネートも
すごいんですよね。

すごいなあ…

そして地域の将来はみんなで
考えるしかない。

僕が大切にしていることは、防災のこと
だけじゃなくて、むらづくりというもっと
大きな枠組みで地域の将来を考えてほ
しいということなんです。

どうやって検討を
進めたんですか？

みんなが井原さんを
信頼する理由が
分かる気がします。

僕はあくまで地域のみんなが
よりよい答えを出すための手助けを
しているだけなんですよ。

むらづくり
計画

みんなでむらづ
くり計画をまとめ
ていったんです。

先例地の視察に行ったり、
ちょっとした楽しみを取り入れながら

検討会

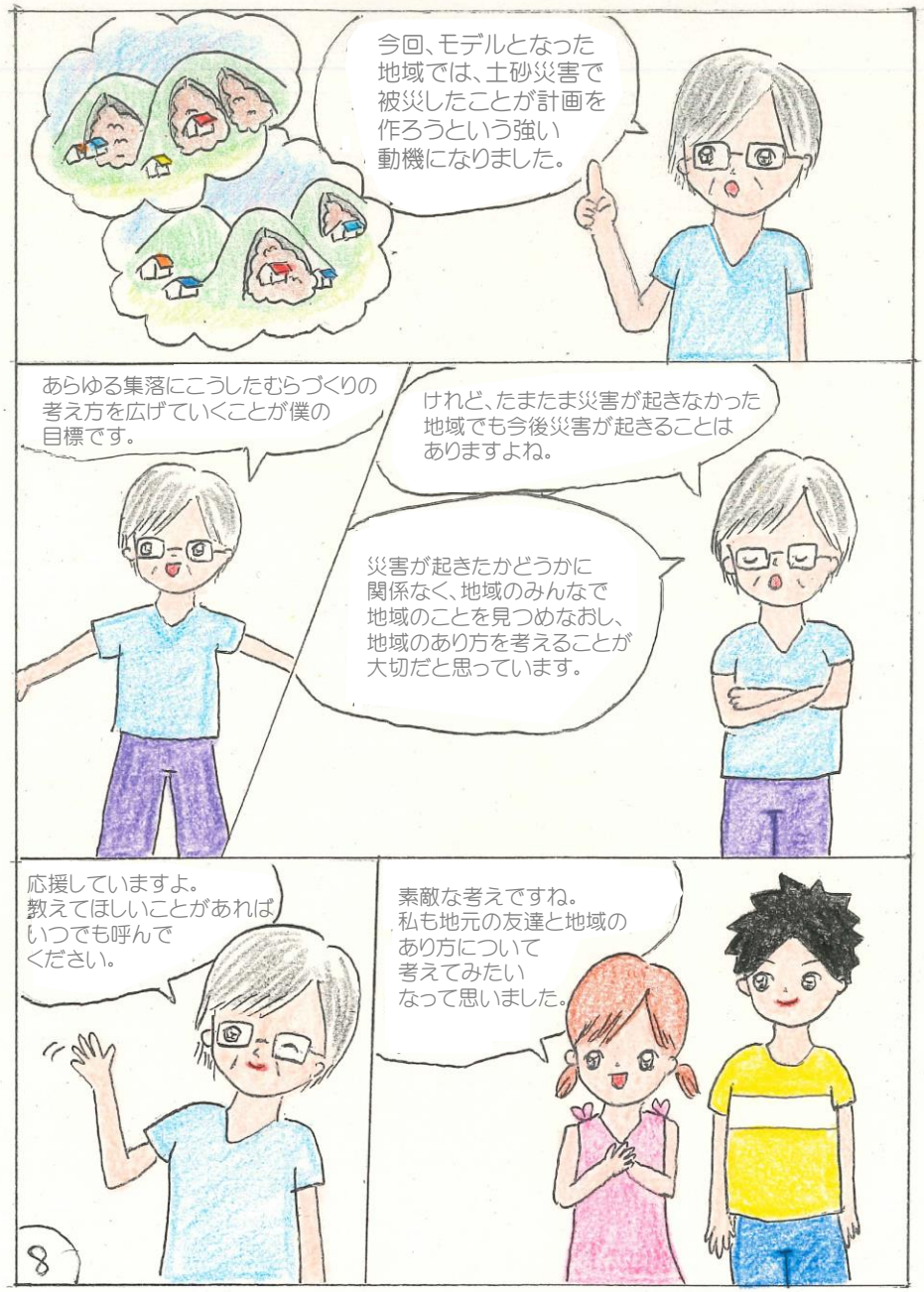
視察

ワークショップ

定期的に集落の検討会を開催したのは
もちろんのこと、
ワークショップを行ったり

観光農園
進めない…
向こうには行けなさそうだな
ウォーキングコース
草刈り
新たに出来る空間を活用したむらづくりも進めていくんですよね。
そうです。サルやイノシシなどの野生鳥獣のすみかにならないように定期的に草刈りをしたり観光農園をつくったり、ウォーキングコースを整備したりしましょう、ということを決めました。
私なんか夏休みに、宿題の計画だけ立てるんですけど全然計画どおりに進まなくて…。
計画をどうやって形にしていくかも大切ですよね。
むらづくりという大きな枠組みという意味がよく分かりました。
大事な視点ですね。自治会長さんが地域全員で計画を実現していこうと呼びかけてくれたことが、大きかったです。1人では大変なこともみんなでやれば楽しくなりますよね。
6

災害に強いまちづくりを進めるため、家と山が隣り合っている土地を少しずつ改善していきましょうということをみんなで決めたんです。
みんなで地域のことを考えるのって楽しそう。どんな計画ができたんですか？
それも1つの方法ですね。けれど、すぐにみんなで引っ越しましょう、というのは、あまり現実的じゃないですよね。
山沿いに住んでいる人たちが引っ越すということですか？
だから、まずは家の裏山の木を伐採したりすることで山と家との間に空間を作りましょう、ということを決めたんです。長期的な視点から新しく山沿いに家を建てるのはやめましょう、ということも決めました。
5


今回、モデルとなった地域では、土砂災害で被災したことが計画を作ろうという強い動機になりました。
あらゆる集落にこうしたむらづくりの考え方を広げていくことが僕の目標です。
けれど、たまたま災害が起きなかった地域でも今後災害が起きることはありますよね。
災害が起きたかどうかに関係なく、地域のみんなで地域のことを見つめなおし、地域のあり方を考えることが大切だと思っています。
応援していますよ。教えてほしいことがあればいつでも呼んでください。
素敵な考えですね。私も地元の友達と地域のあり方について考えてみたいなって思いました。
8

私も、夏休みの宿題を最後は家族でやってます☆
しょんぼり…
大学生を中心に地域以外の人がたくさん応援にきてくれたことも大きかったですね。カンタ君も、この前、参加してくれましたね。
はい
井原さん、これからの目標があれば教えてください。
むらづくりの楽しさを実感できました。
7

取組事例に学ぶ課題と解決の方向性

人（主体）の視点①

一般的に、様々な視点からの効果を期待するような取組については、分野ごとの専門家による技術的な知見や支援が必要となります。

兵庫県では「まちづくりアドバイザー派遣事業」として、集落活動の維持・継続につながる活動の支援のためにまちづくりコンサルタントや専門家を派遣する事業を実施しており、兵庫県丹波市における住民参加の土地利用計画でも活用されました。

人（主体）の視点②

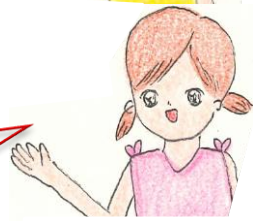
有識者が地域住民をサポートし、必要な知見を提供するとともに、動機付けも主導するような取組も有効です。

NPO法人「地域再生研究センター」の井原氏は、土砂災害の復興計画を策定するために有識者として派遣されましたが、住民のモチベーションを高める役割も担いました。地域住民が参加するワークショップや先進地視察等を行ったことも、住民意識の向上につながりました。なお、有識者の協力を得ようとする場合、有識者の活動の継続性をどう担保していくかも課題となります。

土地の視点①

災害リスクのある土地について、新たな用途への転換を進めることは、地域の強靭化につながります。特に、災害復旧に際しては、被災前と異なる土地利用とする視点も検討することが必要です。

兵庫県丹波市では、地域住民主導による土地利用計画を策定し、土砂災害や野生鳥獣被害に強い土地利用への見直しを図るため、山裾に余裕域（バッファーゾーン）を設定しました。



土地の視点②

様々な視点からの効果を意識し、総合的に最も適した土地の使い方を選択することが重要です。

兵庫県丹波市では、余裕域（バッファーゾーン）として整備した土地で観光農園を作ったりウォーキングコースを整備したりするなど、災害に強いだけでなく、地域づくりの視点も盛り込んだむらづくり計画を作成しました。

土地の視点③

広域的、一体的な取組を同時に進める場合には、一部の地域で優先的又は先行的に実施し、後に段階的に水平展開を図るアプローチも有効です。

兵庫県丹波市では、地域住民主体の協議会で土地利用のルールを検討する復興事業を推進する際に、まず２つのモデル集落において住民主体のむらづくり計画が策定されました。今後、このような取組が市内の他の集落にも波及していくことが期待されています。

仕組みの視点

地域での取組に際して、高等専門学校や大学等の高等教育機関や組織内の人材の経験や知恵を参考とすることが有効です。

兵庫県丹波市では、地区の土地利用計画の実施段階で大学との連携を図り、集会所やバッファーゾーンの整備などに学生が協力しています。なお、大学等の参画を図る場合は、研究に資するフィールドの提供等、大学等の側にとっても有益となるような仕組みを構築することが望ましいと言えます。